



南町小だより

練馬区立南町小学校

令和4年 4月28日

校長 星 美 登 里

つよく かしく あたたかく
～ ありがとうを とどけます ～



ツツジが満開の中、元気に登校しています

「あこがれの6年生」

校長 星 美 登 里

南町小学校の周りは、季節ごとにいろいろな景色が楽しめます。今はツツジが満開です。

南町小学校の6年生は、交代で校旗当番を行います。校旗当番は、学校の校旗を校庭に掲揚、降納する当番で、

今の6年生が5年生だった3月に、卒業直前の6年生から引き継いだ南町小学校6年生の大切な仕事の一つです。4月の始めの朝、校旗当番の新6年生たちが3人で校旗を揚げていました。慣れない作業に苦戦していたのか「校長先生…」と呼び止められましたが、あいにく私は他の対応中で「ごめんね」とだけ言ってその場を離れました。5分ほど経って戻ってみると、校旗は誇らしげに揚がっていました。3人で相談しながら揚げたのでしょう。でも惜しいことに、ロープの端を止めるという最後の工程をせず終わろうとしていました。そこで「次は？」軽く声を掛けたところ、「あっ」と思い出したように、無事仕上げることができました。最後まで責任を果たそうとする姿が輝いて見えました。

学校を支える姿は「あこがれの6年生」の姿です。このような6年生の姿を下級生はよく見ています。そして、子どもたちにとっての「あこがれの6年生」のイメージは、ふれあい班などで「あこがれの6年生」との心の交流を通して感じた姿です。この春に本校を巣立った卒業生が、卒業文集に「あこがれの6年生」への思いを綴っていました。概要を紹介します。

私の夢は、「あこがれの6年生」になることだった。「あこがれの6年生」になりたかった。小学校に入学したとき、とても不安だったけど、6年生がとても優しくかった。ふれあい班でもいつも優しく、みんなを引っ張っていた。だから、私も「あこがれの6年生」になりたいと思っていた。でも、6年生になったとき、「あこがれの6年生」のようになれる自信がなかった。下級生にどのように接したらいいかわからなかった。それでも、自分が優しくしてもらったように、下級生のことを考えて、私も努力してきた。「あこがれの6年生」になれたか分からないけれど、今、あの頃の「あこがれの6年生」に、感謝しています。

「あこがれの6年生」に温かく接してもらった経験を重ねながら、温かい気持ちで相手を思い、行動する力が育ってくるのです。これは、本校で受け継がれてきたよき校風です。異学年交流における関わり合いが子どもたちの成長過程でいかに重要かを感じています。直接的な交流が減っている昨今ですが、直接交流・間接交流のハイブリッドで子どもたちの関わり合いを更に充実させたいです。